



発行者 齋藤勝則  
 編集者 丸山郡次  
 関谷昌樹  
 渡辺次夫

2025年  
 新年に向けて

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

2025年巳年を迎え皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。巳年は、復活と再生を意味する新しいことが始まる年になるとされています。努力を重ね物事を安定させていくとも言われます。

国内では、自公連立政権が過半数の議席を確保できませんでした。トクリュウ・闇バイトによる強盗事件、



円安・物価高、103

万円の壁問題などがあります。日本を取り巻く環境では、今年アメリカ大統領が変わります。新大統領がどのように行動し世界にどのような影響を及ぼすのか心配されます。また、戦争が長引いている地域では終結が見通せず心配です。しかし、関係する皆さんが努力を積み重ね、2025年が安全で安心して暮らせる世の中になって行くことを祈ります。年末から感染症の拡大が懸念されました。予防接種や各自で出来る感染対策を実施して病気にかかることなくお元

気に過ごしてください。OB会では、昨年から試みとして会員の皆さんに半年先迄の活動計画をお知らせしています。この計画に沿っ

て活動を進めています。これについてご意見やご提案を頂き変更可能なものは対応して進めていきますのでよろしくお願い致します。

また、検討を進めている5年先を見据えたOB会活動の方向性や考えを機会あるごとに皆さんと話し合っ

ていきます。皆さんの考えやご提案をお聞かせください。共に協力しあい皆さんの手助けとなる拠り所としての活動にも力を入れていきます。

パリ旅行記  
 副会長丸山郡次

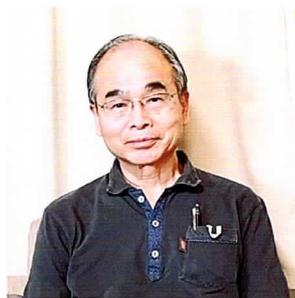
オリンピックでパリが賑いました。十数年前家族で旅行、その時は非常に円高で航空運賃が拾万円、凱旋門近くのリーズナブルなホテルで4泊。翌日、シャンゼリゼ通りから欄干の金網に

恋人たちが掛けた南京錠が隙間なくぶら下がっている橋を渡り「オルセー美術館」へ、ここには美術の教科書に載っている絵が山程。観光本に載っている絵が見つかからないので尋ねたら、日本の美術館に展示中との事であった。シテ島の「ノートルダム寺院」を見て「ルーブル美術館」へ。ミロのビーナスやモナリザに逢い、美術館を出るとそこにはガラスのピラミットであつた。

三日目は、電車やバスを乗り継ぎ「ベルサイユ宮殿」へ、流石ルイ王朝の宮殿 豪華絢爛！私は少女漫画で「ベルサイユの薔薇」が話題になったのは知っていたが、プチトリアノンには知らなかった。云わばマリーアントワネットの宮殿だが、その奥に小さな農家があり家畜が寝そべり返っていた。マリーは好んでここに來たらしい。宮殿の欺瞞に満ちた虚偽的生活から逃

避したかったのだろうか。四日目は、娘達と別行動。妻と二人で「モンサンミッシェル」へ。春の陽光を受け静かな大西洋に面し非常に気持ちのいい景色と空気であつた。

最終日のフライトは夜だったので午前中フランスの「自由の女神」を見て、エッフェル塔へ。エレベーターが、脚に沿って斜めに動くのを見て塔の下が何も無い大空間になっているという長年の疑問が解消した。パリオリンピックの閉会式を見て家族での旅行を懐かしく思った次第です。



独断偏言

1930年代ドイツの医師ゲルソン博士が癌の治療法として考案した栄養食事療法がある。これを1990年福島医大の神経精神科星野医師が、日本人が可能な食事療法に改良し(星野式ゲルソン療法)、見事に自身の大腸癌から転移した肝臓癌を完治させた。1998年郡山在住の松井清氏は、末期の前立腺癌(PSA9560で背骨&腰骨に転移し、医師に余命半年と見放されていた)だったが、最後に星野式ゲルソン療法に飛び、見事に体内から癌細胞を駆除し4年度には完治させた。私は2つ目となつた前立腺癌が見つかった時、ネット検索で知り、直ぐに松井氏宅を訪ね教えを請うた。その後度々面談し、私自身も厳しい食事療法を約半年続けた。もし癌で悩んでいる人が居たらぜひ参考に!!ほぼ全部の癌が対象になりますよ。



未熟者